



農作物の生産に於いて接ぎ木の技術は、生産性の向上や連作障害低減などに優れた効果を発揮し、とても重要な役割を担っています。今回はこの接ぎ木技術について、新しい品種改良法を開発した原田先生にお話頂きます。様々な作物での品種改良へ展開が期待されます。是非ご参加下さい。お待ちしております。

- 日時           **2017年9月7日（木） 15:00～17:00**
- 会場           **埼玉工業大学 30号館 3012講義室**
- プログラム
  - 埼玉工大の育種・栽培研究紹介（埼玉工大 秋田祐介氏）
  - 基調講演      （弘前大学名誉教授 原田竹雄氏）
  - トークセッション   （原田竹雄氏&秋田祐介氏）
  - 交流（名刺交換）

**日本のオリジナル技術「接ぎ木」を活かす！**

## **接ぎ木による作物の品種改良**

弘前大学 名誉教授 農学博士 原田 竹雄 氏

接ぎ木は約4000年前から中国のカンキツ栽培で行われていたとの記録があります。その当初の目的は、優良個体の維持や早期開花を実行する点にありましたが、より優れた根系を有する台木種の存在が次々と明らかにされ、それらを優先的に使用する接ぎ木栽培が採用されてきました。永年性の木本植物における接ぎ木個体の価値は実に大きいものがありますが、トマト、ナス、キュウリなどの1年生の農作物にも接ぎ木栽培が採用されているのは、土壌病害耐性などの台木を使用することで穂木の生産性が大きく向上できるからです。私たちは、この接ぎ木という技法を使用して10年以上前から、RNAの篩管長距離輸送についての研究を進めてきました。その成果から開発した新たな品種改良法を紹介します。



### お申し込み

申込書に必要事項をご記入の上、Email か FAX でご送信下さい。

**参加費  
無料**

埼玉工大 産学交流セミナー事務局

Email : sangaku@sit.ac.jp

FAX : 048-585-6896

セミナー要旨（2017年9月7日開催）

項目	内容
テーマ名	接ぎ木による作物の品種改良
セミナー内容	<p>接ぎ木は約4000年前から中国のカンキツ栽培で行われていたとの記録があります。その当初の目的は、優良個体の維持や早期開花を実行する点にありましたが、より優れた根系を有する台木種の存在が次々と明らかにされ、それらを優先的に使用する接ぎ木栽培が採用されてきました。永年性の木本植物における接ぎ木個体の価値は実に大きいものがありますが、トマト、ナス、キュウリなどの1年生の農作物にも接ぎ木栽培が採用されているのは、土壌病害耐性などの台木を使用することで穂木の生産性が大きく向上できるからです。私たちは、この接ぎ木という技法を使用して10年以上前から、RNAの篩管長距離輸送についての研究を進めてきました。その成果から開発した新たな品種改良法を紹介します。</p>
受講後の効果	<p>本講座で紹介する技術によって、様々な作物で品種改良を実行できます。そして、地域農業の活性化あるいは国の食料自給率向上に貢献します。</p>
対象となる受講者の仕事（受講お勧め）	特に問いません。
講師	原田 竹雄（はらだ たけお） 弘前大学 名誉教授 農学博士
講師のプロフィール、現在行っている研究内容の紹介	<p>【略歴】 昭和55年 北海道大学大学院博士課程 農学研究科修了（農学博士）。 北海道立農業試験場の技術吏員を経て、平成元年に弘前大学農学部 に赴任。その後、同大学農学生命科学部 教授に昇任。平成27年に定年により退職。</p> <p>【主な受賞歴】 平成25年 日本育種学会賞受賞</p> <p>【主な研究内容】 接ぎ木の高度利用による品種改良、リンゴの日持ち性に関する研究</p>
開催日時	2017年9月7日（木） 15:00
会場	埼玉工業大学 30号館3012講義室
その他	服装などの注意事項 なし 写真撮影不可